

高野新聞

Vol.54



たかの
高野 たけし 37歳

民主党公認 逗子市議会議員(2期)

中央大学大学院修士課程修了

発行:高野たけし事務局 〒249-0005 逗子市桜山7-3-3 A-201

高野たけしの変わらぬ信念

私は8年前に市議会議員に初当選させていただいた時、「市民の皆様の声を一つ一つしっかりと聞き、それを形にする政治家になろう」と決意しました。そしてこれまでの8年間、皆様の生活の中からくる、「ああだったらいいな」、「こうだったらいいな」を形にすべく、活動してきました。

これからもこの姿勢を変えることなく、皆様が住んでいて良かったと思えるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

2期目 4年間の主な取り組み

- ・逗子市深夜花火規制条例を議員提案で制定
- ・耐震対策の補助制度を拡充
- ・学童保育施設の拡充を推進
- ・公立保育園の定員枠を拡大
- ・シルバー世代の雇用拡大を提言
- ・電線類の地中化計画を推進
- ・桜山地区の急傾斜地対策を実施
- ・JR逗子駅周辺の駐輪施設再整備計画を提案
(平成22年度～西口駐輪場の整備に着手)
- ・JR逗子駅東口、横断歩道の移設と歩車分離式への変更を実現
- ・JR逗子駅西口、横断歩道の設置と歩道幅の拡幅を実施
- ・JR東逗子駅、エレベーター・エスカレーターの設置を提言(平成22年度中に全て完成の予定)

その他にも、市民の方々より頂いたご意見・ご要望の実現に向け活動。未実施の事案におきましては、引き続き改善に向け尽力してまいります。

連携強化で まちづくりを推進!

近藤大輔 (神奈川県議会議員)

私、近藤大輔が、市議会議員時代に同僚として活動していた高野たけし議員に対する感想は、「分析力と提案力に長けた人材である」というものです。当時の市議会でも、より良い方向性を見出すために、議案審査の過程で喧々諤々の議論を交わしたことを思い出します。

現在は県議会と市議会という別々のフィールドで活動しておりますが、都市整備や教育など、県と市が相互協力を図りながら推進していく分野においては、情報共有を図りながら取り組んでおります。

高野たけし議員と私、近藤大輔は、これまでも、そしてこれからも市民の皆様の声に応えられるようしっかりと連携し、地域サービスの向上に尽力してまいります。





行財政改革

◆事業の取捨選択を行う制度を構築

現在の地方自治体の財政状況は非常に厳しいと言われておりますが、それは逗子市においても例外ではありません。財政の弾力性を示す指標である経常収支比率は99.0%に達していることから財政の硬直化が進んでいることがわかります。

そこで、サービスの受け手である市民や、学識経験者など、第三者の目線を取り入れた事業仕分け制度の導入を提言していきたいと思っております。厳しい財政状況にあるからこそ、事業の取捨選択を行った上で、必要な事業であればいくらの予算を充てることで住民サービスを維持することができるのか、住民ニーズに応えることができるのか、しっかりと見極めていくことが大切であると考えています。

◆民間委託を有効活用

事業の取捨選択と同時に進むべきは、民間委託の有効活用ではないでしょうか。

民間のノウハウ、人材、資本を活用した方が、市が行うより良いサービスを市民の方々に提供できるのを見極めた上で、民間を活用した方が良い事業に関しては積極的に委託していくべきと考えています。



環境・まちづくり

◆電線類の地中化で安心・安全の道路整備

逗子市は道路幅の狭い所が多いため、歩行者の安全性の確保が難しい状況になっております。そこで、歩道の拡幅とバリアフリー化の充実が図られるよう、必要箇所の電線類の地中化をさらに進めていきたいと思っております。また、踏切内道路の安全整備に関しても、JRや県などの関係機関へ引き続き働きかけていきます。

◆交通渋滞の緩和策を推進

JR逗子駅東口駅前には特に交通渋滞が激しいこともあり、交差点の改良を行うなど、その緩和に努めてきましたが、時間帯によっては未だ渋滞が起こりやすい場所となっております。今後も、道路やロータリーの形態、さらには近隣踏切りの遮断時間短縮など、抜本的な改善が図られるよう尽力していきます。

◆養浜対策の拡充で海岸保全

逗子海岸の砂浜には毎年600～800㎡の砂が投入されていますが、台風などの自然災害の影響もあり、ここ数年は特に砂の減少が激しくなっています。今後は、県、及び国に対しても養浜対策の拡充を求めながら、逗子海岸の環境保全に努めていきます。

市民の思いをカタチに変えるプロでありたい。高野たけしの重点施策



少子高齢化対策

◆子育て中のお母さんをサポート

子育て中のお母さんが時間的余裕を作ることができるよう、そのサポート策の一環として、一定時間お子さんを預けることができる保育ステーションの設置を求めています。また、全学区への学童保育施設の充実を図り、働くお母さんのサポート策にも努めていきたいと考えています。

◆小児医療費助成制度の拡充

病院にかかりやすい乳幼児を対象とした小児医療費助成制度においては、近隣自治体との格差を解消すべく、所得制限の撤廃と合わせて対象年齢の引き上げについても、その実現に向け尽力していきます。

◆健康増進策の拡充

高齢者の方々を対象に行っている体操教室、水中運動教室の開催回数の拡大に加え、内容の充実も図っていきます。

◆不足している特別養護老人ホームの誘致

本市における特別養護老人ホームの入所待機者数は307人(平成21年9月1日現在)にのぼっています。市民優遇策を導入した上での誘致を進めていきたいと考えています。



教育環境の整備

◆児童生徒それぞれに合ったカリキュラムの充実

児童生徒の習熟度の差が大きくなっていると言われている教育現場の現状を考えた場合、個々の不得手を解消しやすい少人数指導の充実が必要であると思っております。教員数の問題もあり現在は特定の科目に限られていますが、今後はより多くの科目で実施できるよう、市の予算での人的配置の充実を要望していきます。

◆中学校給食の導入に向けて

私も推進してきた中学校への完全給食の導入が実現に向け動き出しました。現在はどのような形態で導入すべきか庁内で協議中ですが、導入にあたっては適正な施設整備がなされるのか、また食の安全性と栄養面がしっかりと担保されるのか、より良い給食制度となるようその進捗をチェックしていきたいと思っております。

◆児童生徒の目線に立った支援体制の強化

近年、中学校の教育現場では小学校から中学校にあがったとたん学習や生活の変化になじめず、不登校やいじめに発展してしまう「中一ギャップ」が問題となっております。生徒たちがこうした状況に陥らないための対策として、小学校と中学校の教育現場の連携強化を推進していくとともに、全ての子ども達の課題に対応できる支援体制の強化にも努めていきます。